

件名:

6年11月会長通信 お客様の喜びは私の喜び、私の喜びはお客様の喜び

6年11月会長通信 お客様の喜びは私の喜び、私の喜びはお客様の喜び

現在各店にて理念研修を行わせて頂いています。その理念研修の中で気づいたことがあります。

お客様に喜んで頂くことを深く掘り下げて行くと、私たちの仕事の在り方、考え方に影響して来るのです。私たちはお客様に喜んで頂くばかりでは疲れてしまいます。しかしお客様に喜んで頂くことが、もし自分の喜びとするなら、仕事は今までとは違った仕事感が出てきます。

逆から言うと自分の喜びのないお客様への接し方はいりえない、と理解できます。ということは大変なことです。喜びのない仕事はあり得ないことになってしまいます。

みなさま、仕事とは誰かに喜んで頂くことです。では聞きます。仕事は楽しくしていますか？

自利利他と言う言葉があります。

古田土会計より紹介され「初めての利他学」と言う本があります。その中に自利利他と言う言葉があります。

「自分を抜きにした愛は、真の利他には繋がりません。自分を愛するということ、自利利他の自利が忘れているからです。」

と自分の利益、自分の喜びについて書かれています。

更に少し難しいですが

「自分を愛することが出来なければ、他者を愛することは出来ない」「自分の影、自分のネガティブなものも全部ひっくるめて受け止める。大切なのは受け入れがたい自分にも居場所を作ることから始めなければ、自分を愛することは出来ない」

「自分に対する別の言葉で言えば、「自信」です。自信とは、私が私であることを認めること。わたしが唯一無二の存在であることを認められれば、人は、他者もまた唯一無二の存在あるということが分かってくる。利他には等しさが必要。そのためにはまず、他者を愛せる様に、自分を愛し、信じるのが最も大切」と書かれています。

人はなかなか自分自身に自信が持てません。自分の性格がイヤだ。態度がイヤだ。容姿がイヤだ。と自分自身が好きになれません。しかしここでは自分を受け入れなければ自分を愛することは出来ない。自分に自信がなければ、他人の大切さ、他人を慈しむ心が出て来ないと言ってます。

以前私は自利利他は、他人の事を思うことを続けたら回り回って自分の利益に繋がると解釈していました。どうやら少し違っていた様です。実は自分の利益と他人の利益が同じなのです。自分の利益のない、他人の利益はあり得ないのです。いかがでしょうか。

少し難しく言ってしまいましたが、私たちの仕事に直すと

自分自身の喜びがないと、お客様の喜びはあり得ないと翻訳することが出来ます。

「初めての利他学」は別途に次のことが書かれています。

孟子が梁の恵王に会いに行くと、王はこう言った。

「先生、遠くからわざわざ来て頂いてありがとうございます。先生は今回、私たちの国の利益となることを何かお伝えくださるのですか？」

それに対して孟子はこう答えています。

「王さま、どうして利のことばかりをおっしゃるのですか。重要なのは、仁と義だけなのではありませんか」

どうしたら他の国に負けない軍備と資金を、蓄えることが出来るのか、と王が尋ねる。

すると孟子は、自分は王の立場にある人を前に「利」をめぐる話などしない、と強く抗う。そればかりか、王であるあなたにとって最も重要なのは、「利」などではなく「仁」と「義」なのではないか、そう問い返すのです。

これは私たちの世界にも通じます。企業経営で仁と義が最も大切です。

仁とは何か

義とは何か

仁は人が2人と書きます。

以前私は仁を世界の中でたった2人、あなたを思うと回り回って思いが届くと理解していました。しかしこれも少し違っていた様です。

おそらく世の中にはあなたとわたしの2人だけ

あなたは私でありわたしがあなたと言う意味ではないかと思います。

あなたと私が別々ではないのです。

ここが最も重要です。

私たちはお客様に喜んで頂こうと思っています。私たちがあって、お客様があるのではなく、私とお客様がイコールなのです。

これは、その次にある義も同じです。この本には義は

天の前で「義し(よし)」とされることと書いてあります、

天とわたしが同じです。

天とわたしが別々だと生きるのに苦しくなります。

お客様に喜んで頂くのも同じです。

お客様即わたしの世界にいと、仕事が楽しくなります。しかしお客様と私が別々だと、仕事がしんどくなります。

今回の理念研修にて是非ともお客様に喜んで頂くの意味、

自利利他、仁そして義を獲得して頂きたいと願っています。

利益よりもお客様に喜んで頂くことを優先したいは

お客様の喜びは私の喜び、私の喜びはお客様の喜びと

読み替えることができます。

是非その世界に向かって私たちの方向を定めていきたいと願っています。